

## 杉並第三小学校の学校関係者・通学区域内居住者との意見交換会

### 〈意見交換会開催日時〉

平成 22 年 12 月 3 日(金)19:00～

#### ● 1. 適正配置について

No.	当日の主な質問	区教育委員会の考え方
1	課題は、統合して小中一貫教育校にしなければ対応できないのか。また、無理に公立校入学の流れを作り出すことも違和感がある。	高円寺地域の小中学校で児童・生徒が減少傾向にあるため、クラス替えが可能となるような規模となるように学校を再編していきます。よりよい義務教育9年間を行うための案として小中一貫教育を提示させていただいたものです。
2	杉三小と杉十小といった地域性が異なる学校同士が統合させることに疑問がある。	古くからこの地域にお住まいの方々は、杉三小も杉十小も高円寺地域と考えている方がいる一方、現行の住居表示採用以降に生まれた方々は、杉十小は和田地域という認識の方が多く、地域性に対する考え方も異なります。 今後、これまでの意見交換会においていただいた意見を踏まえた案を作成したいと思います。
3	示された案では、通学路や施設面で不安があることから、杉三小を残す案という選択肢も示してもらいたい。	各校で意見交換を行っており、様々なご意見をいただいています。それらの意見を踏まえて、どのような案が望ましいか検討していきます。案を作成しましたら、改めて提示したいと考えています。
4	いずれの学校も今回の取組みについて反対していると思うので、その民意を反映してもらいたいと思う。	学校適正配置及び小中一貫教育の基本方針は、区民の皆様からの意見を聞いたうえで、区として定めたものです。 それぞれの地域で様々なご意見をいただいていますので、これらを総合的に考え、今後進めていきたい案を提示させていただき、質問・意見に応えながらご理解いただくよう努めていきます。
5	本日示された案は、パブリックコメントを経て作成されたものなのか。	今回提示した案は、これまでに寄せられたご意見などを踏まえ作成したものです。最終的な計画を策定する際は、パブリックコメントを実施した上で決定します。
6	今後、未就学者に対しては、どのように説明・周知していくのか。	意見交換会は、在学生の保護者に限らず、地域の方々がどなたでもご参加いただけますので、近隣の幼稚園、保育園などに開催のお知らせを置かせていただいております。今後は、更に多くの方々にお声かけしていきます。

●2. 小中一貫教育について

No.	当日の主な質問	区教育委員会の考え方
1	小中一貫教育の基本方針は、どのような経緯で定められたのか。誰の求めにより策定することとなったのか。	平成19年の学校教育法の改正により、小学校と中学校を一体として教育に取り組む姿勢が示されました。これを受け、小中学校の9年間を連続した学びが必要であるとして、この基本方針を策定しました。また、基本方針の策定にあたっては、パブリックコメントを行い、区民の方からのご意見をいただいた後、教育委員会で決定しました。
2	小学校と中学校の文化の違いを乗り越えることが、子どもの成長に必要なと思う。	成長していくうえで、一つの壁を乗り越えることは重要なことです。しかし、中学校入学時の心理的負担等がかかりすぎることにより、それを乗り越えられずに、不登校等の課題を抱えてしまう子どもたちもいます。成長の節目を大切にしつつ、連続的な指導ができるようにしていきたいと考えています。
3	小学校と中学校が連携することには意義を感じるが、施設一体型とする必要があるのか。	現在の新泉・和泉地区、杉四小・高円寺中で実施している小中一貫教育を踏まえ、施設一体型の小中一貫教育校とすることで、より高い教育効果が得られると考えています。
4	施設一体型の小中一貫教育校において、校長が数年で異動するのは不安に感じると思う。通常の異動基準よりも長く配置することはできるのか。	校長は東京都の教職員であり、東京都の異動方針に基づき異動が行われるため、異動基準を超えて長く配置することはできません。しかし、小中一貫教育校が安定した運営を行っていくために必要な配置については、東京都と調整を行いながら対応していきたいと考えています。
5	最短で28年度に開校とあるが、28年度であれば他自治体等の検証結果も出されていると思う。その結果が思わしくないものであれば、小中一貫教育を実施しないこともあり得るのか。	小中一貫教育は、平成17年から新泉・和泉地区で、19年から杉四小・高円寺中で実施し、各校とも一定の成果が出ています。これらの成果を更に伸ばし、また、他自治体の取組も参考にしながら、よりよい小中一貫教育を実施していきます。
6	上の子は高円寺中に通っている。保護者としては、杉四小と高円寺中の小中一貫教育のメリットを感じていない。杉四小の保護者の意見としても同様であると聞いている。そのような実状を理解しているのか。	杉四小・高円寺中で実施している保護者・教員向けアンケートでは、小中一貫教育の成果に対し、肯定率が高くなっており、取組を理解し、メリットを感じている保護者は多いものと考えています。

7	既に小中一貫教育を実施している新泉・和泉地区において、新泉小と和泉小から和泉中へ進学する生徒は減少しているというが、そのような状況の中で、小中一貫教育の成果をどのように捉えているのか。	私学志向の強い地域ということもある上に、小中一貫教育試行の前から生徒数の減少傾向にあったこと、部活動を実施したい生徒が他の公立校への進学を希望したことなど、さまざまな要因により進学者が少なくなっております。 小中一貫教育にしっかりと取り組み、魅力を高める施策を展開していきたいと考えています。
8	9年間を通じた小中一貫教育の検証は行われていない中で、この取組みを推進していくのはいかがなものかと思う。	9年間を通しての検証はされていませんが、これまでの実績による検証は行っています。その中では、中学生の思いやりの気持ちが醸成されているなど、数値では表せない効果が出ています。 また、小中学校の教員の交流によって、お互いに気づかされることが沢山あり、指導方法も変わったなど、教員の力量形成に有益なものであり、子どもたちにとっても、よりよい教育内容が展開されているものと考えています。
9	高円寺中で、杉四小の児童が学んでいても、直接的な触れ合いはない。杉四小の保護者は、教室が不足しているから追い出されたと感じている。	杉四小児童が高円寺中に通っているのは、週1回であり、施設面との関係は一切ありません。この取組は、小中一貫教育をより効果的に行うために実施しているものです。 なお、杉四小で実施した保護者・教員対象のアンケートでも、「小学生のうちから中学校で生活すること」の設問に関して、8割以上が肯定的に回答しています。

### ●3.その他

No.	当日の主な質問	区教育委員会の考え方
1	杉並区は、どの地域の小学校の教育水準も高いと思うが、中学校は、和田中に希望申請が集中しているなど、課題があると思う。 現在の区立学校の間での格差について、どのように考えているのか。	どの学校も地域の実態に応じた特色ある教育を行っています。学校長の経営方針等により様々な特徴ある取組が行われている中で、希望者が多い学校とそうでない学校がありますが、教育内容に差があるものではありません。
2	「小中一貫教育の実施にあたって、保護者・地域・子どもの声を聞いたのか」という意見が多数あった。また、適正配置で学校をなくすことが先にある。保護者や地域	この取組は、高円寺地域において望ましい教育環境を整えるために実施しているものであり、学校をなくすために行っているものではありません。学校の再編にあたっては、多くの方々にご理解をいただいたうえで、進めていく考えです。

	の理解があって上手くいくものだと思う。	
--	---------------------	--

●意見用紙にて寄せられた意見(平成22年12月3日～12月10日)

No.	意見・質問	区教育委員会の考え方
1	小中一貫教育を行うことで教員が多忙になり、授業や部活動等に影響が出るのではないか。	新泉・和泉地区及び高円寺地域での実績・ノウハウを活かすとともに、区で独自採用した教員を小学校の教科担任制といった特色ある教育活動のために配置するなど、授業や部活動等に影響が出ないように工夫していきます。
2	中学校の選択にあたっては、進学状況ではなく、部活動で選んでいるのが実態である。	多様な部活動の機会が提供できるようにするためにも、適正規模の生徒数を確保した新たな学校づくりを進めていきたいと思えます。
3	まずは全学年単学級の杉八小を廃校にして、その後の人口動態を見てから他校の適正配置を議論してはどうか。	今回提示した案を基に、各校で意見交換を行っており、「中学校は1校でもよいのではないか」など、様々なご意見をいただいています。
4	高南中の通学区域から和田中へ入学を希望している実態がある。生徒数が減少している高南中は、和田中に統合すればよいと思う。	それらの意見を踏まえて、教育委員会としての最終案を改めて提示したいと考えています。
5	将来的には適正配置は行わなければならないが、地域の賛成を得たうえで進めてもらいたい。	この取組は、高円寺地域において望ましい教育環境を整えるために実施しているものであり、多くの方々にご理解をいただいたうえで、進めていく考えです。

### その他の意見

○賛同者が少ない中で小中一貫教育を進めると、公立校への入学者が更に減少することになるのではない  
か。

○小学生にとって、中学生が身近にいることでの、心理的・身体的なデメリットがないのか不安がある。